

第9章 目標値の検討

第9章 目標値の検討

9-1 目標値検討の基本的な考え方

本計画において設定したまちづくりの基本方針を実現するために、前章までで検討した誘導施策や防災指針における具体的な取組などの様々な施策を総合的に実施します。施策の展開に当たっては、施策の効果や効率性等を定期的に検証し、施策を見直しながら計画を進めていくことが重要です。

上記を踏まえ、計画の適切な進捗管理を実施するため、将来都市構造の方針や誘導方針に基づき、目標値を設定します。

なお、目標値の設定に当たっては、本計画策定時点である平成 29 年（2017 年）に設定した目標値の中間評価を実施したうえで、目標値を見直すこととします。

9-2 目標値の中間評価

本計画が策定された平成 29 年（2017 年）に設定した目標値と見直し時点の実績値を比較し、達成状況を評価します。

計画策定時には、コンパクトで公共交通により結ばれた市街地形成を実現する観点から、①居住誘導区域の人口密度と②公共交通の利用者数の目標の 2 つの指標を目標値として設定しました。各指標の実績値を整理すると以下のとおりです。

なお、基準値については、計画策定時点の直近の国勢調査年を基準として算定しました。

◇居住誘導区域の人口密度

区域	面積 ^{※1} (ha)	人口密度 (人/ha)		評価
		基準値 ^{※2} 平成 27 (2015) 年	実績値 ^{※3} 令和 2 (2020) 年	
菊池中心市街地	341.6	23.3	22.8	↓減少傾向
泗水国道 387 号沿道	132.2	24.1	29.0	↑増加傾向
合計	473.8	23.5	24.5	↑増加傾向

※1 面積は、土砂災害警戒区域等を除外する見直し前の誘導区域面積

※2 国土交通省国土技術政策総合研究所(以下、「国総研」)が公開している将来人口・世帯予測ツール Ver.2 による平成 27 年国勢調査 100mメッシュ人口と誘導区域が重複するメッシュの人口を合計したもの

※3 国総研の将来人口・世帯予測ツール Ver.3 による令和 2 年国勢調査 100mメッシュ人口と誘導区域が重複するメッシュの人口を合計したもの

◇公共交通の利用者数

公共交通利用者数 (人/日)	基準値 ^{※4} 平成 27 (2015) 年	実績値 ^{※5} 令和 5 (2023) 年	評価
バス交通利用者	1,993	1,488	↓減少傾向

※4 基準値: 国道 387 号を通る主要バス路線として、熊本電気鉄道株式会社の運行系統別輸送実績報告書路線番号 101、109、111 の輸送人員より算出

※5 実績値: 国道 387 号を通る主要バス路線として、熊本電気鉄道株式会社の運行系統別輸送実績報告書路線番号 109、111 の年間輸送人員(令和 5 年 4 月～令和 6 年 3 月)より算出(101 は存在せず)

居住誘導区域の人口密度は、菊池中心市街地で減少する反面、宅地開発が進む泗水国道 387 号沿道地区では増加しています。

一方、公共交通利用者数については、バス路線の減便やコロナ禍の影響を受け、減少傾向が続いています。

9-3 目標値の設定

本見直しでは、既存の「居住」、「公共交通」に加え、都市機能の誘導による効果を測る目標値として、都市施設の維持管理コスト等に関連する「財政指標」及び、災害リスク低減に向けた「防災に関する目標」を新たに設定します。施策の実施が目標値の達成に結びつき、それによって将来にわたり都市機能が維持されるよう、実現性の高い目標値を定めます。

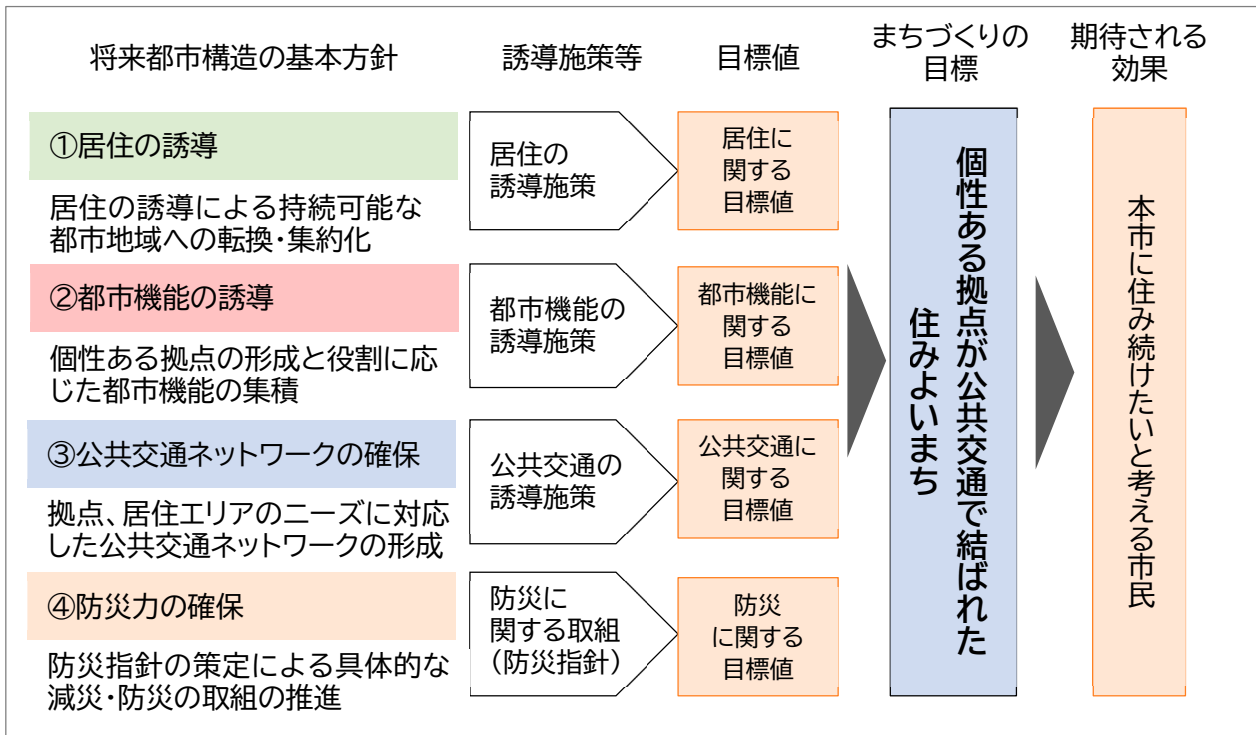


図 9-1 基本方針と施策、目標値の関係性

(1) 居住に関する目標値

居住誘導区域の人口密度は、本市を取り巻く環境の変化や人口減少を踏まえ、実情に即した目標値を設定する必要があります。そこで、本見直しに当たっては、次回以降の検証の継続性と算定根拠の透明性を確保するため、国総研の「将来人口・世帯予測ツール Ver.3」を用いて推計値を算定しました。

菊池市第3次総合計画後期基本計画(令和8年3月)における人口ビジョン将来推計パターン(令和17年(2035年)時点)の目標値を基準として、社人研による将来推計よりも本市の人口密度を維持していくことを目指して目標値を設定します。

区域	面積※1 (ha)	人口密度(人/ha)		
		実績値 令和2(2020)年	社人研推計値※2 令和17(2035)年	目標値※3 令和17(2035)年
菊池中心市街地	336.7	23.1	20.5	21.5
泗水国道387号沿道	134.9	28.4	28.4	29.8
合計	468.9	24.8	22.8	23.9

※1 面積は、土砂災害警戒区域の除外等の見直し後の誘導区域面積

※2 国総研の将来人口・世帯予測ツール Ver.3 による市町村別100mメッシュ別の将来人口推計の値を国立社会保障・人口問題研究所が公表した本市全体の推計値で補正し、誘導区域と重複するメッシュ人口を合計したもの

※3 第3次総合計画後期基本計画における人口ビジョンの2035年時点の目標人口を基にした誘導区域の人口密度

(2) 都市機能に関する目標値

将来にわたり持続可能な行政サービスを提供するためには、都市機能を集約し、財政の効率化を図る必要があります。本市では「菊池市公共施設等総合管理計画」に基づき、令和 38 年度（2046 年度）までに公共施設の延床面積を平成 29 年度（2017 年度）と比較して 52.2%削減することを目標としています。本計画においても公共施設の集約・再編等の適正化を行う観点から、以下のとおり指標を設定します。

評価指標	公共施設の延床面積（㎡）	
	基準値 令和 6（2024）年※1	目標値 令和 17（2035）年※2
公共施設の延床面積の削減	295,969.7	234,765 (2017 年比 44.4%削減)

※1 菊池市公共施設等総合管理計画 公共施設(建物)保有総量削減の進捗管理より

※2「菊池市公共施設等総合管理計画」における 2045 年の目標値 200,466.92 ㎡より設定

(3) 公共交通に関する目標値

公共交通を取り巻く状況は計画策定時点から大きく変化しており、都市機能誘導区域を結ぶ国道 387 号の基幹的な路線バスだけではなく、「きくちべんりカー」などの市が補助を行うバス路線や「きくちあいのりタクシー」など、複合的な交通手段により交通ネットワークの確保が求められています。そのため、以下のとおり指標を設定します。

評価指標	利用者数（人/年）	
	基準値 令和 6（2024）年	目標値 令和 17（2035）年
基幹的路線バスの利用者数※3	54,020	54,020
路線バス交通利用者※4	159,012	167,200
きくちべんりカー利用者		
きくちあいのりタクシー利用者		

※3 実績値:国道 387 号を通る路線バスである熊本電気鉄道株式会社の運行系統別輸送実績報告書路線番号 109、111 の年間輸送人員(令和 5 年 4 月～令和 6 年 3 月)より算出

※4 市が補助を行うバス路線の利用者数

(4) 防災に関する目標値

防災指針に示した取組方針、具体的な取組を踏まえ、ハード・ソフト両面における災害リスクの回避・低減のための項目を指標として設定します。

評価指標	基準値 令和 6（2024）年	目標値 令和 17（2035）年
市道改良率	89.3%	92.5%
きくち防災・行政ナビアプリダウンロード数	12,356 人	16,000 人
自主防災組織※5 の組織率	92.1%	100%

※5 自主防災組織は、自治会などで地域住民が協力し、「自分たちのまちは自分たちで守る」ことを目的に、日頃から様々な活動を行う組織を指す

9-4 期待される効果

各目標が達成されたことにより、期待される効果は以下のとおりです。

評価指標	現状値 令和 6 (2024) 年	目標値 令和 17 (2035) 年
全般的な暮らしやすさに関して満足※と回答した市民の割合	29.4%	40.0%

※ 令和6年度市民アンケートにおける「全般的な暮らしやすさ」に関する回答において「満足」・「やや満足」と回答した市民の割合

9-5 計画の見直し

概ね5年ごとに計画に記載された施策及び事業の実施状況の調査・分析・評価を行い、計画の推進状況や妥当性を検証し、必要に応じて適切に本計画や関連する都市計画の見直しを行うものとしします。

なお、計画の進行に当たっては、毎年の施策の検証も必要です。令和7年(2025年)から国が提供する「まちづくりの健康診断」を踏まえて、施策の効果検証や近隣自治体や同規模の自治体との比較を行いながら施策を見直し、より実効性の高い施策の展開に努めます。

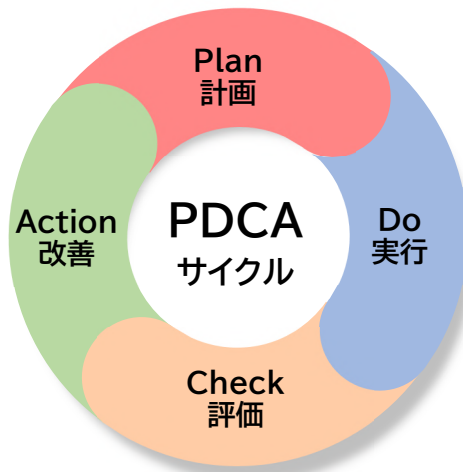


図 9-2 PDCA サイクル

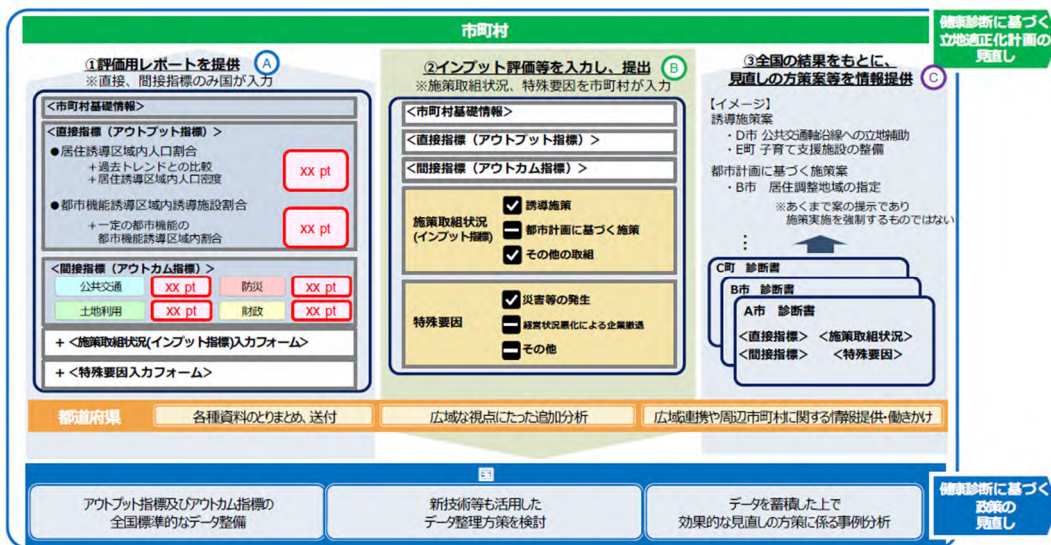


図 9-3 まちづくりの健康診断のイメージ

出典:国交省 立地適正化計画の実効性の向上に向けたあり方検討会とりまとめ